

年度評価シート

課名 歴史文化課

施設の名称 静岡市歴史博物館	指定管理者名 公益財団法人静岡市文化振興財団												
1 履行状況													
<p>業務仕様書及び事業計画に従って概ね適切に履行されている。</p> <p>(1) 維持管理業務</p> <p>日常的な管理、展示品の管理、利用者へのサービス提供に関する業務を実施したほか、エレベーター、自動ドア、電気設備等の保守点検業務及び清掃、建築物環境衛生管理業務等、計16業務について第三者委託により実施し、各業務とも事業計画に従って適正に行われている。</p> <p>修繕については、開館初年度の施設のため大規模なものはない。小規模なものとしては、1階風除室の破損フィルム張替え及び3階展示室入口へのフィルム設置、企画展示室と基本展示室間の仕切りカーテン設置等、計8件を実施した。</p> <p>(2) 施設利用者数</p> <p>令和4年度の入館者数は165,103人(目標値150,000人)、うち有料観覧者数は35,105人(目標値27,000人)で、それぞれの達成率は110%、130%と目標値を上回った。</p> <p>これは、後述する様々な事業を実施することで、歴史博物館の認知度向上や歴史博物館ファン及びリピーターの獲得につながったと考えられることから、概ね良好な運営がなされている。</p> <p>また、歴史博物館がグランドオープンした令和5年1月には、NHK大河ドラマ「どうする家康」の放送が始まり、「どうする家康 静岡 大河ドラマ館」が開館した。家康公を展示の中心に据えた歴史博物館にとっては追風となり、利用者増につながったと考えられる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和4年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入館者数 ※1</td> <td>150,000人</td> <td>165,103人</td> <td>110%</td> </tr> <tr> <td>うち有料観覧者数 ※2</td> <td>27,000人</td> <td>35,105人</td> <td>130%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：プレオープンの令和4年7月23日から集計 ※2：グランドオープンの令和5年1月13日から集計</p> <p>(3) 事業実施状況</p> <p>「歴史文化のまちづくりの拠点」となる施設として、仕様書、事業計画に基づき、施設運営の基本理念となる「歴史探求」、「地域学習」、「観光交流」に資する事業展開がなされており、各種事業について概ね適切に実施されている。</p> <p>一部事業については、コロナ対策のため定員を減らして実施するなど、計画より目標人数を下回った事業があるものの、実施回数については事業計画を大幅に上回っており、これらの取り組みが施設利用者の増につながったものと考えられる。</p>		令和4年度	目標値	実績値	達成率	入館者数 ※1	150,000人	165,103人	110%	うち有料観覧者数 ※2	27,000人	35,105人	130%
令和4年度	目標値	実績値	達成率										
入館者数 ※1	150,000人	165,103人	110%										
うち有料観覧者数 ※2	27,000人	35,105人	130%										

特に、学芸員自らが企画運営する「わかりやすい地域・歴史のはなし」等は、ほぼ毎週末のように開催され、時宜を得たテーマ選定や、研究成果をわかりやすく伝える工夫などにより、リピーターを獲得するなど来館者から高い評価を得ている。工作体験をはじめとしたイベント事業も数多く開催することで、「土日祝日には毎日、何かのイベントが楽しめる」・「気軽に訪れて楽しい時間が過ごせる」博物館という新たなスタイルの印象付けができ、開館初年度におけるこれらの取り組みは大いに評価できる。

また、小中学校の見学も積極的に受け入れており、多くの児童生徒が来館した。見学の際には、歴史博物館が作成した学習ワークシートを配布し、ただ見学するのではなく、自らが考えて学習する仕組みとしており、児童生徒の歴史に対する理解を深め、郷土への愛着の醸成に資する取り組みであると考えます。

今年度実施した事業を検証し、来館者の増につながった事業の強化・継続と、課題の改善に取り組み、次年度以降も継続して目標達成されるよう期待する。

主な事業名、実施回数等は以下のとおり。

ア「歴史探求」に係る事業

(ア) 基本展示

1月13日（金）～3月31日（日） 67日間
観覧者数35,105人（目標27,000人 達成率130%）

(イ) 企画展示 実施回数2回（目標1回以上）

a「徳川家康と駿府」

1月13日（金）～2月26日（日） 39日間
観覧者数20,115人

b「駿府の華 静岡浅間神社」

3月25日（土）～3月31日（金）（5月7日まで継続実施） 6日間（38日間）
観覧者数2,070人

(ウ) 資料調査及び研究

静岡市内の徳川家康に関する資料、近世から近現代の個人資料等の調査を実施した。研究では静岡浅間神社総合研究会、静岡県地域史研究会、静岡県近代史研究会と共催で研究会を開催した。 調査件数50件（目標28件）

(エ) 資料の収集・保存・管理

市内各所の所蔵資料を点検し博物館で保存管理することとした。

イ「地域学習」に係る事業

(ア) 学習支援事業

博物館ボランティアの育成、市民団体との共同展示・ワークショップの開催、高校大学との共同講座、出張講座等を実施した。

市民団体等との連携・共同事業：実施回数27回（目標16回）

(イ) 教育普及事業

小中学校の来館見学対応、出張授業、館長の歴史がたり、古文書講座、子ども向け歴史講座等を実施した。

連続講座、子ども講座・親子講座：実施回数50回（目標11回）

ウ「観光交流」に係る事業

(ア) 観光交流事業

市民観光コンシェルジュ、しずれきガイドツアー等を実施した。

ガイドツアーによる常設ツアーの運営：実施回数109回（目標90回）

(イ) にぎわい創出事業

わかりやすい地域・歴史のはなし、しずれきにぎわい広場、ナイトミュージアム、ユニークベニュー事業等を実施した。

イベント事業：実施回数81回（目標10回）

2 市民(利用者)からの意見・要望の内容とその対応状況の評価(クレーム対応 等)

利用者からの意見・要望に対しては概ね適切な対応がとられており、即時の対応が困難である要望に対しても前向きに検討しており、良好な対応がなされているといえる。引き続き来館者に寄り添った丁寧な対応を心掛けてほしい。

[具体的な意見・要望と対応状況]

意見等：館内の動線がわかりづらい。

対 応：館内及び屋外に案内表示を設置した。

意見等：休憩場所が少ない。

対 応：1階遺構周辺に椅子を設置した。2階ホワイエ、3階展望ラウンジに椅子を設置し、図録等を備え付けることで観覧途中の休憩場所とした。

3 市民(利用者)へのアンケートや満足度調査の状況評価

(1) 利用者満足度調査

館内に投書形式のアンケートを設置し、来館者に対し満足度や、意見・要望について調査しており、今年度は1,015件の回答を得た。満足度においては、「満足」または「やや満足」とした割合が8割強を占め、高い評価を得ている。

なお、次年度以降は展示内容や各種事業に対するアンケートを実施し、寄せられた意見・要望や満足度等を分析し、各種事業運営に反映させることに期待する。

〈主な調査項目〉

ア 年代 10代未満：5.7% 10代：9.9% 20代：8.5% 30代：7.6%
40代：13.3% 50代：21.0% 60代：16.4% 70代：11.3%
80代以上：3.5% 無回答2.9%

イ 居住地 葵区：35.4% 駿河区：17.4% 清水区：10.5% 市外：18.7%
県外：15.9% その他：0.3% 無回答：1.8%

ウ 満足度 総合：84.6%（満足54.1%、やや満足30.5%）

(ア) 職員の対応：85.7%（満足54.9%、やや満足30.8%）

(イ) 清掃、整理整頓：91.6%（満足67.4%、やや満足24.2%）

(ウ) 案内表示、掲示板：74.5%（満足43.3%、やや満足31.2%）

(エ) 開館日、開館時間：86.3%（満足50.7%、やや満足35.6%）

(オ) 空調、音響、照明等：84.8%（満足54.0%、やや満足30.8%）

4 指定管理者の経理状況の評価

指定管理業務についての収支状況については、概ね予算のとおりにより執行されており良好である。

5 総合的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

施設管理については、今年度開館した新規施設のため想定外の事象も多く発生したが、その都度、市と対応策を協議し、必要な修繕を行うなど適切に実施されている。次年度以降も経年による変化や保守点検結果などに留意しつつ、職員の館内巡回による日常点検を継続して実施するなど、適切な施設管理に努めてほしい。

事業実施については、歴史博物館の設置目的を理解した事業が実施されている。一部事業については計画した参加者数を下回るものがあったものの、実施回数については目標を大きく上回っており、開館初年度の施設として、認知度の向上と新規来館者獲得に資する取り組みは評価に値する。

今年度、高い目標設定であった入館者数等を達成できたのは、指定管理者の努力とともに、前述した取り組みによるもののほか、新規施設であることの新しさや物珍しさ、NHK大河ドラマ「どうする家康」の放送開始、「どうする家康 静岡 大河ドラマ館」の開館などの複合的な要素によるものと考えられる。次年度も、「どうする家康」の影響で引き続き来静者の増加や、駿府城エリアに注目が集まることを見込まれることから、年間入館者数500,000人（観覧者数141,000人）という高い目標が設定されている。目標達成のため、歴史文化に関わる様々な団体と連携して、引き続きイベントや講座、ワークショップの積極的な開催と、新規来館者の獲得及びリピーターの増加を図るための魅力的な企画展の開催、広報強化等に取り組むとともに、大河ドラマ館や駿府城公園3施設等と連携した事業の継続と強化に期待する。

また、年末にはNHK大河ドラマ「どうする家康」が終了し翌年には新たなドラマ所縁の地が脚光を浴びることになる。次年度早期から、放送終了後を見据えた事業を企画、展開することで、継続的な入館者数の確保につなげてほしい。